

# 彼方「かなた」

校長通信  
H30.6.28  
Vol.10

【みがき合い・支え合う、心豊かでたくましく生きる生徒をめざす!】

一年生は清水公園、二年生は長野県菅平、三年生は京都・奈良、行く先は全く違いますが、共通しているねらいがあります。それは、「学校教育目標」を具体的に実現させることです。事前に調べてい



ったことと現地です。事前で学んだことのギャップに心動かされたり、係りの活動を通して仲間を支えたり、現地の方々との積極的な交流したり、外国の方々との交流したりとそれぞれの学年でいろいろなことを体験できたと感じます。それらひとつひとつが、学校教育目標につながっていくのです。そしてそういう生徒をめぐすことで、周囲に良い影響を与え、周りを勇気づけ、笑顔にすることができると感じます。



校外学習に打ち込んでいる皆さんの純粋な姿を見ることができ、多くの人が賞賛してくれました。長野のホテルの皆さん、農業体験等を受け入れてくださったホットステイの皆さんや農家の方々、自然体験の現地ガイドさん、修学旅行先でお世話になった現地ガイド



から口々に「白山中学校の皆さんは本当に素晴らしいですね!皆さんの姿に元気をもらえました。感激しました。」と声をかけてもらえました。中には、修学旅行先での白山中生の善行に感激し、わざわざお礼のお手紙を下された方もいました。

皆さんがスローガンを掲げ、皆で力を合わせて校外学習や林間学校、修学旅行を成功させようとする姿の裏には、その姿を周囲の人達に見てもらおうと、多くの人々を勇気づけ、笑顔にするという役割があるのです。だからこそ一人一人がどんな言動を取ることもできたか大きな意味を持つのです。皆さんの自信を持った振り返りを聞き、本当に学年行事になったのだということが伝わってきました。発表の中にもありましたが、次は、学校を離れて校外学習で実践できたことを日々の学校生活や日常の活動に生かしていくことです。授業や委員会、部会、部活、挨拶、歌声、清掃等の活動に反映させ、



来校した皆さんが「白山中っていいね。もう一度来たい!」と思ってもらえるように一人一人が自分のできることを意識して取り組んで欲しいと思います。まずは「挨拶」からです

そして三年生は、中学校生活最後の部活動の大会やコンクールに全力で取り組み、体育祭につなげて欲しいと思います。部活に入っていない人も、放課後の日直の手伝いをしたり、サポートする側としてできることに取り組んで欲しいと思います。一、二年生についても、三年生を支える意味で、自ら授業や部活、日常の委員会、部会の活動等に積極的に取り組む姿を作って欲しいと思います。そういう本気で頑張る姿が、周囲に元気を与え、笑顔にしてくれます。

あつという間の三カ月でしたが、一学期を締めくくる残り三週間、一人一人が必死に取り組む姿で校内を溢れさせませんか?今日の報告集会が次のステップとなるように、明るい挨拶と共に諸活動がスタートするように、「大変だけれど頑張れたね」と言ってもらえるように皆で心をひとつにして取り組んでいきたいです。そして学校中にいい笑顔が広がることを願っています!頑張れ白山中生!

